

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	歴史総合	『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社）	3 単位	第 1 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	歴史的事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察したり説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本と世界の近現代史を総合的に学ぶことを通じて、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 結びつく世界と近代世界の成立 ・19 世紀中頃以前の世界の近代化の様子と日本の変容を理解することができる。 ・19 世紀中頃以前の世界の近代化について相互の関連や現在との繋がりを考察したり説明したりすることができる。 ・19 世紀中頃以前の世界の一体化について自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	19 世紀前半までの世界の一体化 中国と日本の開国 不平等条約体制の成立 江戸幕府の滅亡 ・一人 1 台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・環大西洋革命の進展や不平等ネットワークが構築される中で中国と日本がどのように変容していったかについて経緯と関連性を理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるかどうか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	18
	中間考査			○	○		1
	B 明治維新と日本の立憲体制 ・19 世紀後半の日本の近代化と国民国家や立憲制成立の様相を世界の動きと関連付けながら理解することができる。 ・19 世紀後半の日本の近代化について世界の動向や現在との繋がりについて考察したり説明したりすることができる。 ・19 世紀後半の日本の近代化について自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 殖産興業と文明開化 自由民権運動と立憲体制 ・一人 1 台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・明治維新以降、日本がどのように近代的文化や諸制度を導入し、当時の国際関係のなかで変容していったかについて、その経緯と関連性を理解できているか ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	19
	期末考査			○	○		1
2 学 期	C 帝国主義の展開とアジア ・19 世紀末から 20 世紀初頭に帝国主義が世界でどのように展開し、そのなかで日本がどのように行動し変容していったかを理解することができる。 ・第二次産業革命の進展や世界分割の原因、帝国主義列強の相互関係などについて考察したり説明したりすることができる。 ・帝国主義と世界分割の進展、それら世界の動きと日本の関わりについて自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響 ・一人 1 台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・明治中期以降以降、日本がどのように産業革命を進展させ、対外戦争に勝利し、当時の国際関係のなかで帝国主義化していったかについて、その経緯と関連性を理解できているか。あわせて教育の進展を背景にどのような国民国家が形成されていったのかについて理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	20
	中間考査			○	○		1
	D 第一次世界大戦と大衆社会 ・初の総力戦である第一次世界大戦が世界にどのような変化をもたらし、戦間期はどのような国際関係が現出し、どういった経緯で大衆社会が成立したのかを理解することができる。 ・総力戦と、その後に展開する社会主義国の成立や国際協調体制の成立、大衆消費社会の成立の相互の関連性を考察したり、説明したりすることができる。 ・当時の大衆社会の形成や国際協調体制の構築など世界の相互関係を今日と比較する中で、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障 アジアアフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容 社会運動と大衆の政治参加 ・一人 1 台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・大正期の日本に、どのような市民社会が現出し、それは世界の動向とどのように関係しているかについて、その関連性と特徴を理解できているか。あわせて教育の進展を背景にどのような国民国家が形成されていったのかについて理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	20
	期末考査			○	○		1

3 学 期	E 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌の拡大がどのような影響を世界に及ぼし、ファシズムの台頭と第二次世界大戦の勃発をもたらしたか、あわせて大戦に至る複雑な国際関係の推移を理解することができる。 ・国際協調体制の樹立にもかかわらず、四半世紀も経たずになぜ二度目の世界大戦が勃発したのか、あわせて当時の欧州とアジアの関連性を考察したり、説明したりすることができる。 ・当時のファシズムの進展や世界経済の分断などの相互関係を今日と比較する中で、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き 第二次世界大戦と太平洋戦争 ・一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・世界恐慌は国際秩序にどのような変化をもたらし、ファシズムはどのように台頭したのだろうか。この時期の日本の変容は国際社会にどのような影響を与え、その後の大戦はどのような展開をたどり、それは戦後の世界にどのような影響を残したのだろうか。以上の事柄について理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	12
	F 戦後の国際秩序と日本の改革 ・第二次世界大戦後の世界秩序がどのような経緯を経て形成されていったかについて、国際協調体制と冷戦の二側面から理解するとともに、戦後の日本の変容について、戦前と比較しながら、その具体的展開を理解することができる。 ・再度の国際協調体制の特徴と、冷戦構造について、アジアと欧州の差異に着目しつつ、考察したり、説明したりすることができる。 ・当時の世界の相互関係や民主化の進展を今日と比較する中で、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができる。	新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化 占領政策の転換と日本の独立 ・一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・新たな国際協調体制はどのような特徴を持ち、ほぼ同時期に始まった冷戦はどのようにして始まったか。独立したアジア諸国はどのような困難に直面したのか。戦後の日本の民主化はどのような変化をもたらし、占領政策の転換は日本の独立回復とその後の日本にどのような影響を与えたのだろうか。以上の事柄について理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	11
	学年末考査			○	○		1
							合計
							105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査において記号問題・記述問題など知識及び技能に関する問題を出題・採点することなどで評価する。	定期考査において論述問題・正誤問題など思考力や判断力、表現力を問う問題を出題・採点することなどで評価する。	ロイロノートもしくはプリントを用いて、問いを表現する課題を学期毎に取り組ませ、その提出状況などに鑑み評価する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
公民	公共	『高等学校 公共 私たちがひらく未来・社会』（清水書院）	2 単位	第 1 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
倫理、政治、経済に関する基礎的基本的な知識、概念、理論、課題を理解するとともに、資料を調べ、まとめる技術を身に付ける。	課題解決に向けた考え方、多面的・闊的に考察する力、公正に判断する力、構想したことを議論する力を養う。	課題を主体的に解決しようとする態度および人間としての生き方あり方についての自覚と公民としての自覚を深めさせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 公共の扉 (1) 公共的な空間をつくる私たち ・自らを成長させる人間としての生き方あり方について理解させる。 ・人間が社会的存在であることおよび自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることを理解させる。 ・自立した主体になることがキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解させる。 ・社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、公共的な空間をつくる存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに人間としての生き方あり方についての自覚を深めさせる。	【指導項目】 ・私たちの人生と社会 ・青年期の心理と課題 ・古代ギリシア思想 ・キリスト教とイスラーム ・仏教 ・儒教 ・日本の風土と神道および仏教 ・江戸時代の学問と近代化への歩み ・3 分間スピーチ 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人 1 台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・社会の中で生きる意味を考えることができたか。 ・青年期の意義、青年心理と青年期の課題を考えることができたか。 ・源流思想の特徴を理解することができたか。 ・日本思想の特徴を理解することができたか。 ・源流思想や日本思想をてがかりに、現代に生きる私たちの課題の解決に向けて考えることができたか。 ・源流思想や日本思想をてがかりに、現代に生きる私たちの生き方あり方を主体的に考えることができたか。	○	○	○	1 1
	中間考査			○	○	○	1
	(2) 公共的な空間における人間としての生き方あり方 ・帰結主義と義務論を理解させる。 ・課題解決に向けて行為者自身の生き方あり方について探求することが十四意であることを理解させる。 ・資料から情報を収集し読み取る技能を身に付けさせる。 ・帰結主義や義務論を活用した課題解決に向け、思考実験などの考察する活動を通して間としての生き方あり方を多面的多角的に考察し表現させる。 (3) 公共的な空間における基本的原理 ・人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが公共的な空間をつくる上で必要であることを理解させる。 ・公共的な空間における基本的原理を理解させる。 ・思考実験等を用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。	【指導項目】 ・帰結主義と義務論 ・生命倫理と環境倫理 ・近代西洋の思想 ・現代西洋の哲学と政治思想 ・3 分間スピーチ 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人 1 台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・カント、ベンサム、ミルの思想の特徴を理解することができたか。 ・生命倫理と環境倫理の特徴を理解することができたか。 ・西洋近代哲学の展開と特徴を理解することができたか。 ・西洋近現代の政治社会思想の展開と特徴を理解することができたか。 ・先哲の思想をてがかりに、現代に生きる私たちの課題の解決に向けて考えることができたか。 ・先哲の思想をてがかりに、現代に生きる私たちの生き方あり方を主体的に考えることができたか。	○	○	○	13
	期末考査			○	○	○	1
2 学 期	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ・権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことを理解させる。 ・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解させる。 ・公正かつ自由な経済活動が資源の効率的な配分を実現すること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与する役割を政府が担っていることおよび活発な経済活動と個人の尊重が両立できるものであることを理解させる。 ・解決が求められる課題を設定し、課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	【指導項目】 ・民主政治の基本原則 近代国家と立憲主義、法の支配 大日本帝国憲法と日本国憲法 ・日本国憲法の基本的性格 基本原則と人権保障 平和主義と国際社会 国際人権 ・民主政治の成立と課題 自由民主主義の成立と課題 世論の形成と民主政治 政治参加と主権者 選挙と政党 ・3 分間スピーチ ・株式学習ゲーム 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人 1 台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・民主政治の基本原則を理解することができたか。 ・大日本帝国憲法の特徴を理解することができたか。 ・日本国憲法の基本的性格を理解することができたか。 ・民主主義の成立と展開を理解することができたか。 ・民主政治の基本原則や日本国憲法の基本的性格および民主政治の成立と課題に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。	○	○	○	1 3

		中間考査		○	○	○	1
	〃	【指導項目】 ・日本の統治機構 国会、内閣、裁判所、地方自治 ・国際政治 国際政治の成立と展開 国際連合の成立と役割 第二次世界大戦後の国際政治 国際政治の現状と課題 ・私たちと経済活動 私たちと経済 国民経済 ・経済社会のしくみと役割 市場のしくみと機能 市場の特徴と限界 金融と財政 企業 ・株式学習ゲーム 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・日本の統治機構を理解することができたか。 ・現代日本の統治機構に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。 ・国際政治の基本原則を理解することができたか。 ・国際連合のしくみと課題を理解することができたか。 ・第二次世界大戦後の国際社会の展開を理解することができたか。 ・国際政治の現状と課題を理解することができたか。 ・国際政治に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。 ・経済社会の見方考え方を理解することができたか。 ・市場経済の基本原則を理解することができたか。 ・金融と財政の基本原則を理解することができたか。 ・現代の企業について理解することができたか。 ・経済に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。	○	○	○	1 3
		期末試験					1
3 学 期	〃	【指導項目】 ・経済社会のしくみと役割 労働と社会保障 ・国際経済 国際収支 自由貿易とグローバル化 国際経済のこれから	・労働と社会保障についての基礎的基本的な知識を理解することができたか。 ・労働と社会保障に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。 ・国際収支と外国為替に関する基礎的基本的な知識を理解することができたか。 ・自由貿易と国際分業に関する基礎的基本的な知識を理解することができたか。 ・国際経済の現状と今後に関する基礎的基本的な知識を理解することができたか。 ・国際経済に関する基礎的基本的な知識を用いて、今日の社会が抱える課題を設定し、その課題解決に向けて協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現することができたか。				1 0
	C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題を見出し、課題の解決に向けて協働して考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。	【指導項目】 ・持続可能な社会をつくる A I 地球規模での環境問題 食料問題や水資源問題 少子高齢化と社会保障 グローバルに考え、ローカルに行動する 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・「公共」まとめとして「公共」全体にかかる課題を設定し、総合的かつ多面的・多角的に考察し、協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表見することができたか。				5
	学年末考査						1
							合計
							7 0

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、授業における発表や発言，課題等の内容，3分間スピーチやディベートあるいはビブリオバトル等の多様な学びから総合的に評価する。	定期考査を中心に、授業における発表や発言，課題等の内容，3分間スピーチやディベートあるいはビブリオバトル等の多様な学びから総合的に評価する。	授業に臨む姿勢，提出物の提出状況や内容等から総合的に評価する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	地理総合	『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店） 『新詳高等地図』（帝国書院）	2 単位	第 2 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取組などを理解する。 地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 地図と GIS の活用 ・ 球体としての地球，緯度・経度の基本的なしくみ，地球上での位置の示し方を理解する。経度の違いから時差の概念をとらえ，日常生活における時差計算の技能を身につける。 ・ 図法により異なる世界地図の特色をとらえ，スケール，視点，図法などを変化させながら，日本の位置を理解する。 ・ 身近な地図の特徴をとらえ，地図情報の有用性を理解する。紙地図と電子地図としての GIS があることを理解し，地理院地図や地形図を通して認識する。GIS が日常生活にも利用されている事例をとらえ，GIS について理解する。	・ 指導事項 球面上の世界 日本の位置と領域 国内や国家間の結びつき 暮らしのなかの地図と GIS 主題図・グラフの見方 地形図の見方 ・ 端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・ 地球上での位置，太陽高度の変化，緯度経度のしくみ，時差の計算について理解できたか。世界地図の主な図法と利用について理解できたか。GIS の特徴や利用方法，そのしくみについて理解し，GIS で作成した地図を重ね合わせ，地域の特徴を分析する方法を身につけたか。 ・ 球体としての地球の観点から，図を活用して地球上の位置や時差のしくみをとらえ，説明できたか。世界地図を図法の違いにより使い分けることができたか。身近な地図について，目的により表現方法を使い分けることができたか。 ・ 球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し，作業や考察に取り組むことができたか。様々な世界地図の違いに関心を持ち，資料などから様々な世界地図の存在に気づくことができたか。身の回りの地図に興味を持ち，意欲的に地図の知識を活用できたか。	○	○	○	11
	1 学期中間考査			○	○		1
	B 地形と生活文化 ・ 世界の大地形の広がりがプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し，変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し，地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・ 河川，海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり，およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について，写真や地形図などの資料を通して考える。	・ 指導事項 変動帯とプレート 河川つくる地形と生活 海岸の地形と生活 地形図の読図 ・ 端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・ 地形についての知識を身につけ，世界的視野から地形の分布の特徴をとらえることができたか。地形図から等高線や地図記号などを判読し，地形の特徴や土地利用をとらえることができたか。 ・ 世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ，世界の地形配置と比較しながら考察できたか。生活している地域の地形の特徴について，写真，地形図などからとらえ，人間生活との関連を考察できたか。 ・ 地形図や分布図，写真，模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み，地形と人間生活とのつながりをとらえようとしたか。	○	○	○	6
	C 気候と生活文化 ・ 世界的な視野から大気や海流が循環するしくみをとらえ，地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・ 降水量と気温の特徴を踏まえ，世界の気候をケッペンの気候区分からとらえ，植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 ・ 各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか，写真や雨温図などの資料から考える。	・ 指導事項 大気の循環 ケッペンの気候区分 熱帯の自然環境と生活 乾燥帯の自然環境と生活 温帯の自然環境と生活 亜寒帯・寒帯の自然環境と生活 ・ 端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・ 大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみを理解できたか。各気候の分布の特徴を理解できたか。雨温図や写真から情報を抽出し，各気候と植生の対応や，それらが関連した人々の生活の特徴を読み取り，整理できたか。 ・ 世界規模の大気のしくみが人間生活に影響していることを，資料をもとに考察できたか。気候の分布の規則性を，気候区分図をもとに考察できたか。写真などの資料をもとに，各気候により景観が異なることをとらえ，農業や生活への影響を考察できたか。 ・ 雨温図や写真の判読を通じて，世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。雨温図やハイサーグラフなどの気候資料の作成に意欲的に取り組んだか。	○	○	○	7
	1 学期期末考査			○	○		1
2 学 期	D 産業と生活文化 ・ 世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状をとらえ，世界スケールにおける第 1 次産業，第 2 次産業，第 3 次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・ 産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか，産業はどのように変化してきているのか，主題図などの資料を通じて理解を深める。	・ 指導事項 農業の発展と生活文化 工業の発展と生活文化 サービス業の発展と生活文化 ・ 端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・ 世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観できたか。主題図や写真，グラフ，統計資料から世界の産業の分布と発達をとらえることができたか。 ・ 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料をもとに考察できたか。世界の産業の変化をグローバル化の観点で考察できたか。 ・ 身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。産業が発達し続けていることを，時事的話題とともに意欲的にとらえようとしたか。	○	○	○	8

2 学 期	E 宗教・言語と生活文化	・指導事項 宗教の分布と生活文化 言語の分布と生活文化 移民と難民 生活文化の多様性 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解したか。主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の宗教の分布と特徴をとらえることができたか。 ・生活と宗教の関わりについて、地域性や歴史的背景をもとにとらえ、資料をもとに考察できたか。世界的な難民と移民の問題を地図などの資料からとらえ、考察できたか。 ・世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどに関連させて追究できたか。難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究できたか。	○	○	○	5
	2 学期中間考查			○	○		1
	F 世界各地の生活・文化	・指導事項 経済発展と生活文化の変化 宗教の多様性と生活文化の変化 水の恵みと生活文化 イスラーム社会と生活文化 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・図版や写真から特徴をとらえ、自然環境・社会環境と生活文化との対応と地域の変化を整理できたか。各地域の事例を通して、自然環境・社会環境がその地域の生活文化に与えた影響を理解できたか。 ・各地域の事例を通して、自然環境・社会環境と生活文化との関わりを、資料をもとに考察できたか。各地域の生活文化の変化および課題を、資料をもとに考察できたか。 ・各地域の生活文化を調べ、自然環境・社会環境との関連性について、意欲的に探究できたか。各地域の特性を、他地域との共通点・相違点を踏まえて追究できたか。	○	○	○	8
	G 地球的課題と国際協力	・指導事項 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口・食料問題 居住・都市問題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・さまざまな地球的課題を、主題図やグラフなどの資料からまとめ、その解決策を含め理解できたか。 ・さまざまな地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりとの観点からとらえ、考察できたか。それらの問題が人々の生活に与える影響を意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できたか。 ・さまざまな地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりと関連させて、それらの問題が人々の生活に与える影響について意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できたか。	○	○	○	5
	2 学期期末考查			○	○		1
3 学 期	H 日本の自然災害と防災	・指導事項 世界からみた日本の地形の特色 世界からみた日本の気候と特色 風水害と防災 火山噴火と防災 地震・津波と防災 都市型災害と防災 防災への心構え 日本の特徴と課題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	・日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解できたか。日本列島における自然災害について具体的事例を通じて、災害のしくみや特徴、地域性、防災への取り組み方や課題を理解できたか。地形図やハザードマップを活用し、防災と避難行動について考察する技能を身につけることができたか。 ・日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できたか。日本の自然環境の特徴を反映した自然災害が発生してきたことを資料から読み取り、それを踏まえて自然災害時の対策を考察できたか。 ・自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べることができたか。GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究できたか。	○	○	○	15
	学年末考查			○	○		1
							合計
							70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力，判断力，表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考查，提出課題など	定期考查，提出課題など	提出課題，授業への取組状況，定期考查など

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	世界史探究	『詳説世界史』（山川出版）	2 単位	第 2 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代社会の基軸をなす近代欧米社会の形成を中心に学習し、歴史という「ビッグデータ」に触れ、思考・判断・表現に必要な基礎的な知識事項の定着をはかる。	歴史的事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して考察・説明に取り組み、それらをもとに議論する力を養う。	近代欧米史へのアプローチにより、グローバル的な資本主義体制の確立を理解し、それに伴う諸問題を考察するなかで、主体的な探究心と周囲への寛容な姿勢を育む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●諸地域世界の形成 ●近世ヨーロッパ世界の形成 1 ルネサンス 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	・古代、中世時代の諸地域の特徴を理解する。 ・ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ・ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ・中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。	・諸地域の文化的特徴と相互交流の過程について理解し、それを多面的・多角的に考察して表現している。 ・ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 ・美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 ・ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 ・ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	中間考査			○	○		1
	●近世ヨーロッパ世界の形成 3 宗教改革 4 主権国家体制の成立	・それまでの教会改革の試みと 16 世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ・カルヴァン派やイギリス国教会の特徴や成立の意義を理解する。 ・カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ・16 世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。	・新宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 ・宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ・宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 ・主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 ・主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
	期末考査			○	○		1
2 学 期	●近世ヨーロッパ世界の形成 5 オランダ・イギリス・フランスの台頭 ●産業革命と環大西洋革命 1 産業革命	・オランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・イギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ・近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ・イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・16 世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	・オランダ・イギリス・フランス持った有利な点や課題を理解している。 ・イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ・覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・産業革命がイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。 ・産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・産業革命について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
	中間考査			○	○		1

	●産業革命と環大西洋革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	・北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ・独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ・人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	・アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。 ・アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。 ・アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。 ・フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 ・フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
	期末考査			○	○		1
3 学 期	●イギリスの優位と欧米国民国家の成立 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	・ウィーン会議がどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ・ウィーン体制動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ・イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ・1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	・19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 ・ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	●イギリスの優位と欧米国民国家の成立 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展	・クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ・19世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。 ・ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ・領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 ・アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。	・19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。 ・ルネサンスとの比較をふまえて、科学革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ・19世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。 ・南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。 ・アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	学年末考査			○	○		1
							合計
							70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査において記号問題・記述問題など知識及び技能に関する問題を出題・採点することなどで評価する。	定期考査において論述問題・正誤問題など思考力や判断力、表現力を問う問題を出題・採点することなどで評価する。	プリントやワークブック、ロイロノートを用いて、問いを表現する課題を適時取り組ませ、その提出状況などに鑑み評価する。また日頃の授業へ取り組む姿勢を重視する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	地理探究	『新詳地理探究』（帝国書院） 『新詳高等地図』（帝国書院）	5 単位	第 3 学年 文系選択者

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力，判断力，表現力等】	【学びに向かう力，人間性等】
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に，世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で，現代日本に求められる国土像の在り方について構想する科目で，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に，世界の空間的な諸事象の規則性，傾向性，地域的特色や課題などを理解する。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察する力，地理的な課題を把握して，解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を育成する。	地理的な課題を主体的に探究しようとする態度，日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを，日々の学習の積み重ねによって涵養する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	自然環境 ①地形，気候，生態系などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，地球環境問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②地形，気候，生態系などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③自然環境について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとすること。	・指導事項 地理の基礎事項 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①地形，気候，生態系などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，地球環境問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②地形，気候，生態系などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③自然環境について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	29
	1 学期中間考査			○	○		1
	資源と産業 ①資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，資源・エネルギー，食料問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③資源，産業について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとすること。	・指導事項 農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題 工業 第 3 次産業 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，資源・エネルギー，食料問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③資源，産業について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	24
	交通・通信と観光，貿易 ①交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸，観光などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，交通・通信，観光に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸，観光などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③交通・通信，観光について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとするこ と。	・指導事項 人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸，観光などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，交通・通信，観光に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸，観光などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③交通・通信，観光について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	1 学期期末考査			○	○		1

2 学 期	人口，村落・都市	・指導事項 人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①人口，都市・村落などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，人口，居住・都市問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②人口，都市・村落などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③人口，村落・都市について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとするこ	○	○	○	25
	生活文化，民族・宗教	・指導事項 衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題 ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①生活文化，民族・宗教などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，民族，領土問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②生活文化，民族・宗教などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③生活文化，民族・宗教について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとするこ	○	○	○	9
	2 学期中間考査			○	○		1
	現代世界の諸地域	・指導事項 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジア・中央アジア アフリカ ヨーロッパ 旧ソ連 アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア ・端末の活用 必要に応じて Teams やロイロノートを利用する	①いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに，諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに，地域の結びつき，構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 ②現代世界の諸地域について，地域の結びつき，構造や変容などに着目して，主題を設定し，地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し，表現すること。 ③現代世界の諸地域について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとするこ	○	○	○	34
	2 学期期末考査			○	○		1
3 学 期	総合問題演習	・指導事項 共通テスト対策 国公立入試問題対策		○	○	○	40
							合計
							175

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力，判断力，表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査，提出課題など	定期考査，提出課題など	提出課題，授業への取組状況，定期考査など

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	日本史探究	『詳説日本史』（山川出版社）	5 単位	3 年文系 選択クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 原始・古代の日本と東アジア (1) 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動を通して、原始時代を通観する問いを表現する。 (2) 黎明期の日本列島について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 (3) 原始から古代の政治・社会や文化の特色や変容を理解し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。	・史資料と原始・古代の展望 ・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解し、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現することができるか。 ・上記の内容について、考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができるか。	○	○	○	31
	中間考査			○	○		1
	A 原始・古代の日本と東アジア（続き） (1) 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動を通して、古代史を通観する問いを表現する。 (2) 律令国家について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 (3) 律令国家の形成から変容について理解し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。	・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解した上で、多面的・多角的に考察し、表現することができるか。 ・上記の内容について、考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができているか。	○	○	○	32
	期末考査			○	○		1
2 学 期	B 中世の日本と世界 (1) 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動を通して、中世史を通観する問いを表現する。 (2) 中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 (3) 中世の政治・社会や文化の特色や変容を理解し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。	・歴史資料と中世の展望 ・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・鎌倉文化と室町文化 ・戦国大名の登場 一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解できたか。 ・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解できたか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができているか。	○	○	○	34
	中間考査			○	○		1
	C 近世の日本と世界 (1) 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動を通して、近世史を通観する問いを表現する。 (2) 近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 (3) 近世の政治・社会や文化の特色や変容を理解し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。	・歴史資料と近世の展望 ・織豊政権と桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・幕政の改革 ・幕府の衰退と近代への道 ・江戸時代の文化 一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解できたか。 ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解できたか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができているか。	○	○	○	34
	期末考査			○	○		1

3 学 期	D 近現代の地域・日本と世界 (1) 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、近現代史を通観する問いを表現する。 (2) 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 (3) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化に着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通した歴史の画期を見いだし、根拠を示して表現する。	・近世から近代へ ・近代国家の成立 ・近代国家の展開 ・近代の産業と生活 ・恐慌と第二次世界大戦 ・占領下の日本 ・高度成長の時代 ・激動する世界と日本 一人1台端末を活用し Teams やロイロノートを使用する予定である	・明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容について理解できているか。 ・恐慌と第二次世界大戦、および占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などを基に、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解できているか。 ・上記の内容について考察したり説明したりできるか。 ・上記の内容について、自分なりの問いを主体的に表明し探究することができているか。	○	○	○	40
							合計
							175

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査において記号問題・記述問題など知識及び技能に関する問題を出題・採点することなどで評価する。	定期考査において論述問題・正誤問題など思考力や判断力、表現力を問う問題を出題・採点することなどで評価する。	ロイロノートもしくはプリントを用いて、問いを表現する課題を学期毎に取り組ませ、その提出状況などに鑑み評価する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
地歴	文系世界史	『詳説世界史』（山川出版）	5 単位	3 年文系 選択クラス

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代史及び古代・中世史に関する基本知識を体系的に習得、共通テスト、国公立大学二次試験に必要な知識力を育成する。	歴史的事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察したり説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	諸地域の文明形成及び交流へのアプローチにより、グローバルな現代世界の確立を理解し、それに伴う諸問題を考察。主体的な探究心と周囲への寛容な姿勢を育む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	1. 欧米近代国家の発展とアジアの動揺 2. アジア諸地域の動揺 3. 古代オリエントと地中海世界	・東方問題、アメリカの発展、オスマン帝国の動揺 ・ムガル帝国の滅亡と清朝の動揺 ・メソポタミア、エジプト文明	・19世紀のアメリカの拡大、西アジア地域の変容を理解 ・ムガル帝国及び清朝の衰退、両地域へのイギリスの進出とその影響を考察して表現している。 ・西アジア世界の歴史的な特徴を理解している。	○	○	○	29
	中間考査			○	○		1
	4. 帝国主義とアジアの民族運動 5. 二つの世界大戦 6. 古代オリエントと地中海世界	・列強による世界分割と対立、アジアの改革と民族運動 ・第一次世界大戦とロシア革命、戦間期、世界恐慌と第二次世界大戦 ・古代イラン、ギリシア文明	・帝国主義の成立とそれに伴う植民地分割とアジアの抵抗を考察して表現している。 ・二度の世界大戦がおこる原因とその結果と影響を考察して表現している。 ・アケメネス朝の統一とササン朝の興隆について理解している。	○	○	○	34
	期末考査			○	○		1
2 学 期	7. 冷戦と第三世界の独立 8. 現在の世界 9. 中世ヨーロッパ世界の形成 10. アジアの古代文明	・米ソの対立激化、第三世界の台頭と緊張緩和、冷戦の終結 ・東欧の民主化とソ連邦の解体 ・ヨーロッパ統合への歩み ・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・中国の古代文明	・戦後秩序の形成と戦後世界の展開を考察して表現する。 ・キリスト教の成立と発展について考察して表現する。 ・西欧世界の成立過程を理解して考察する。 ・東欧世界の成立過程を理解して考察する。 ・東アジア文化圏の形成と特徴を理解して考察する。	○	○	○	29
	中間考査			○	○		1
	11. 中世ヨーロッパ世界の変容 12. アジアの古代文明	・西欧封建社会の変容 ・中国の古代文明 ・インド、東南アジアの古代文明	・西欧封建社会の変容について考察し表現する。 ・南アジア、東南アジアの文化圏の形成と特徴を理解 ・東アジア文化圏の形成と特徴を理解	○	○	○	39
	期末考査			○	○		1
3 学 期	・入試対策指導	・国公立大学二次試験、私立大学入試問題の解説及び添削		○	○	○	40
							合計
							175

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査において記号問題・記述問題など知識及び技能に関する問題を出題・採点することなどで評価する。	定期考査において論述問題・正誤問題など思考力や判断力、表現力を問う問題を出題・採点することなどで評価する。	プリントやワークブック、Teams を用いて、問いを表現する課題を適時取り組ませ、その提出状況などに鑑み評価する。また日頃の授業へ取り組む姿勢を重視する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
公民	倫理（文系）	『高等学校　新倫理』（清水書院）	2 単位	第 3 学年選択者

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古今東西の宗教や哲学・思想に関わる資料を読み、現代の諸課題の解決に向け思索するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	他者と共に生きる自己の在り方生き方について、論理的に思索し、先哲の思想に対する自分の考えを文章に表したり、対話したりする力を養う。	自己の在り方生き方について主体的に学習すると共に、他者と共に生きる自己を形成していく態度を養う。現代の諸課題についても多面的な考察を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 (1) 人間としての在り方生き方の自覚 【知識及び技能】 ・幸福・愛・徳などについて思索するために、古代の宗教や哲学について理解する。 ・源流思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方を読み解く。 【思考力、判断力、表現力等】 ・東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野からより広い視野から人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・他者、集団、社会との関わりに着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結びつけて多角的・多面的に捉えて、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。 (2) 国際社会に生きる日本人としての自覚 【知識及び技能】 ・古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、国際社会に生きる日本人の在り方生き方について思索するための手掛かりとなる人間観、自然観、宗教観について、自己との関わりにおいて理解する。	【指導項目】 ・ギリシア思想 ・キリスト教 ・仏教 ・諸子百家 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・先哲の考え方を手掛かりにして、人間の在り方生き方について多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。	○	○	○	1 1
		中間考査		○	○	○	1
		【指導項目】 ・日本人の信仰 ・日本の仏教 ・日本の儒教 ・日本近現代思想・ 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・日本人の信仰や思想を手掛かりにして、人間の在り方生き方について多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。	○	○	○	1 3
		期末考査		○	○	○	1
2 学 期	・古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方を読み解く。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古来の日本人の考え方や日本の先哲の思想を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに人間としての生き方あり方についての自覚を深めさせる。 (1) 人間としての在り方生き方の自覚 【知識及び技能】 ・善・正義・義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解する。 ・真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解する。 ・近現代思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方を読み解く。 ・個性、感情、認知、発達などに着目して、人間の心の在り方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・近現代の思想家の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。	【指導項目】 ・ルネサンス、宗教改革、モラリス ト ・経験論と合理論 ・社会契約説 ・唯物論と観念論 ・功利主義と義務論 ・進化論と実証主義 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・西洋近代の思想を手掛かりにして、人間の在り方生き方について多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。	○	○	○	1 3
		中間考査		○	○	○	1
		【指導項目】 ・マルクス主義 ・プラグマティズム ・現象学と実存主義 ・構造主義とポスト構造主義 ・フランクフルト学派 ・分析哲学、科学哲学 ・アメリカの政治思想 【教材】 ・心理学 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・現代の思想を手掛かりにして、人間の在り方生き方について多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。	○	○	○	1 3
		期末試験					1

3 学 期	B 現代の諸課題と倫理 (1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 【思考力、判断力、表現力等】 ・生命、自然、科学技術などと人間の関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて、倫理に関する概念や理論を手掛かりにして公正に判断し、自分の考えを説明。論述する。	【指導項目】 ・生命倫理 ・環境倫理 ・科学技術と倫理	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・これまでに学んだ思想を手掛かりにして、人間と生命、環境、科学技術との関わりについて多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。				8
	(2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理 【思考力、判断力、表現力等】 ・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて、倫理に関する概念や理論を手掛かりにして公正に判断し、自分の考えを説明。論述する。	【指導項目】 ・福祉とケア ・文化と宗教 ・平和と人類の未来 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・各指導項目について理解することができたか。 ・各指導項目に関する原典資料を読み解くことができたか。 ・これまでに学んだ思想を手掛かりにして、人間と福祉、文化、宗教、平和との関わりについて多面的。多角的に考察し、自分の考えを表現することができたか。 ・他者との対話を通じて、社会の中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考察することが出来たか。				7
		学年末考査					1
							合計
							70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、授業における発表や発言，ロイロノートを活用した課題の内容等の多様な学びから総合的に評価する。	定期考査を中心に、授業における発表や発言，ロイロノートを活用した課題の内容等の多様な学びから総合的に評価する。	授業に臨む姿勢, 提出物の提出状況や内容等から総合的に評価する。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
公民	政治・経済	『高等学校 政治・経済 現代をみる力 あしたを拓く力』（清水書院）	文系 2 単位 理系 3 単位	第 3 学年 A ～ H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的多角的な考察や深い理解を通して涵養される、公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 現代日本における政治・経済の諸課題 (1) 現代日本の政治・経済 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を行う。 ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について理解を深める。 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて理解を深める。 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・政治の在り方及び政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通した経済活動の活性化について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする。 (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究 社会的な見方考え方を働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる日本社会の諸課題を探究する。 ・日本社会の諸課題の解決に向けて政と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。 ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする。	【指導項目】 (1) ・日本の政治・経済の現状 ・民主政治の基本原理 ・政治と法の意義と機能 ・基本的人権の保障と法の支配 ・権利と義務 ・裁判員制度 ・議会制民主主義と各国の政治制度 ・地方自治 ・世論の形成 ・経済理論 ・経済活動と市場 ・市場経済の機能と限界 ・公害防止と環境保全 ・消費者問題 ・経済主体と経済循環 ・国民経済の指標と経済成長 ・物価と景気変動 ・財政の働きと仕組み及び租税などの意義 ・金融の働きと仕組み (2) ・社会保障の充実と安定化 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方・生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・中小企業の在り方 ・財政健全化 ・食料の安定供給と持続可能な農業 ・防災と安全・安心な社会 ・ディスカッション 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人 1 台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について理解を深めることができたか。 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて理解を深めることができたか。 ・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができたか。 ・日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ・政治の在り方及び政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し、構想し、表現することができたか。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通した経済活動の活性化について多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとすることができたか。 ・自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとすることができたか。	○	○	○	文系 2 4 理系 3 7
	中間考査および期末考査			○	○	○	2

2 学 期	B グローバル化する国際社会の諸課題 (1) 現代の国際政治・経済 個人の尊厳と基本的人権の尊重, 対立, 協調, 効率, 公正などに着目して, 現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする。 ・国際社会の変遷, 国際法の意義, 国際機関の役割, 我が国の安全保障と防衛, 国際貢献について理解を深める。 ・貿易の現状と意義, 為替相場の変動, 国民経済と国際収支, 国際協調の必要性, 国際経済機関の役割について理解を深める。 ・諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付ける。 ・国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し, 表現する。 ・日本の役割について多面的・多角的に考察し, 表現する。 ・国際経済の特質について多面的・多角的に考察し, 表現する。 (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究 社会的な見方考え方を総合的に働かせ, 他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究する。 ・国際社会の取組, 持続可能な国際社会づくりなどについて, 課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察, 構想しよりよい社会の在り方についての自分の考えを説明, 論述する。 ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。 ・自国を愛し, その平和と繁栄を図ることや, 国家及び社会の形成に, より積極的な役割を果たそうとする。	【指導項目】 ・国際政治及び国際経済の現状 ・国際社会の変遷 ・国際法 ・竹島や北方領土, 尖閣諸島 ・国際連合などの国際機関 ・我が国の安全保障と防衛, 国際貢献 ・貿易の現状と意義 ・為替相場の変動 ・国民経済と国際収支 ・国際協調の必要性 ・国際経済機関の役割 ・国際社会の特質 ・国際紛争 ・軍縮や核兵器廃絶 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ・国際経済に貢献する日本の役割 ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容 ・地球環境と資源・エネルギー問題 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・イノベーションと成長市場 ・人種・民族問題や地域紛争 ・持続可能な国際社会づくり ・ディスカッション 【教材】 ・教科書 ・資料集 ・授業プリント 【学習支援ツール】 ・一人1台端末の活用 ・チームズやロイロノート等	【知識及び技能】 ・国際社会の変遷, 国際法の意義, 国際機関の役割, 我が国の安全保障と防衛, 国際貢献について理解を深めることができたか。 ・貿易の現状と意義, 為替相場の変動, 国民経済と国際収支, 国際協調の必要性, 国際経済機関の役割について理解を深めることができたか。 ・諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けることができたか。 ・国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し, 表現することができたか。 ・日本の役割について多面的・多角的に考察し, 表現することができたか。 ・国際経済の特質について多面的・多角的に考察し, 表現することができたか。 ・社会的な見方考え方を総合的に働かせ, 他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究することができたか。 ・国際社会の取組, 持続可能な国際社会づくりなどについて, 課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察, 構想しよりよい社会の在り方についての自分の考えを説明, 論述することができたか。 ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとすることができたか。 ・自国を愛し, その平和と繁栄を図ることや, 国家及び社会の形成に, より積極的な役割を果たそうとすることができたか。	○	○	○	文系 26 理系 40
	中間考査および期末考査			○	○	○	2
3 学 期	大学入試問題への挑戦	【指導項目】 ・大学入試問題の解説					文系 16 理系 24
							合計 文系 70 理系 105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に, 授業における発表や発言, 課題等の内容, アサイメントの提出とディスカッションへの参加等の多様な学びから総合的に評価する。	定期考査を中心に, 授業における発表や発言, 課題等の内容, アサイメントの提出とディスカッションへの参加等の多様な学びから総合的に評価する。	授業に臨む姿勢, 提出物の提出状況や内容, アサイメントの提出とディスカッションへの参加等の多様な学びから総合的に評価する。